

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0890800022		
法人名	有限会社ふれあい介護サービス		
事業所名	グループホームふれあい		
所在地	茨城県龍ヶ崎市原塚町3605-5		
自己評価作成日	2021年8月4日	評価結果市町村受理日	2021年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0890800022-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	2021年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふれあいの基本理念に基づき、1. 明るく楽しく笑顔あふれる新しい第2の我が家を目指します。ご利用者がご自分のご自宅で生活していた時のように穏やかで安心した日々を送ることが出来るようお手伝いをさせていただいております。季節を感じる行事や広々とした緑豊かな環境の中で畑仕事やお茶のみをしています。散歩にも出かけて季節の移り変わりを楽しんでます。2. 個性を大切に、常に愛情を持って寄り添い信頼関係を築きます。ご利用者様のお一人お一人の個性を把握しその方のニーズに沿ったケアを日々考えていくように努めています。昼食時には職員も一緒に食事をとり色々な話をして仲の良い人間関係を築けるようにしています。3. 地域の皆様とふれあいながら開かれた施設になるように努めます。近所の方々が気軽に遊びに来て下さりお茶のみ話をさせていただいております。ホームで孤立することなく、買い物やお食事へ外出しています。ホーム主催の納涼祭やもちつき大会等には近隣の方々を招待させて頂いております。 ※現在感染症対策として上記の行事等は行っておりません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員で作り上げた3つの理念をもとに、事業所を第2の故郷として当たり前の生活が送れるよう努めている。緑豊かな閑静な集落にあり、広大な敷地は職員や利用者によって手入れが行き届いている。花壇には季節の花々があり、ドッグランや畑を眺めたり、お茶・体操・散歩等で四季の移ろいを感じるなど、自己免疫力も高まる開放的な環境である。地域住民との交流は自然にできており、散歩時に挨拶を交わしたり、野菜を頂くこともある。コロナ禍前は事業所の納涼祭や餅つき大会には近隣住民を招待し、一緒に楽しい時間を過ごしていたが、現在は中止している。感染予防マニュアルを作成し、必要物品の整備・ゾーニング・シミュレーションを実施している。24時間連携の医療機関と事業所に非常勤看護師が勤務していることは利用者・家族にとって安心である。
*新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインで調査を実施。ホーム内の視察及び書類閲覧はモニター越しに行い、リアルタイムの映像で確認。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員研修にてスタッフ全員でふれあいの理念を創り上げ、地域の中で共生することを掲げています	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を職員と一緒に作り、玄関・ユニットに掲示して意識付けを図っている。名札にも記載があり、日々振り返ることもできるが、ケア提供時は安全の為、名札を外していることも多く、再検討するとの事。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出掛けて地域の方にお会いする時にはご挨拶をして、ホームに気軽に遊びに来て下さるようにお声を掛けさせて頂いております。お花やお野菜を持って遊びに来て下さいます ※現在には行っておりません	近隣住民との関係は良好で、日常的に挨拶を交わし、花や野菜を頂くときもある。コロナ禍で件数は減少しているが、認知症や介護、福祉に関する相談を受け、アドバイスをしたり、関係機関に繋いでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からのご相談を受けてお手伝いをさせて頂いております ※現在には行っておりません		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々、消防団の方々等、お忙しい中ご足労を頂き、貴重なご意見をいただきサービス向上に努めています	2ヶ月毎に家族や民生委員、区長や消防団、行政や事業所担当者の構成メンバーで開催。行事予定・利用者状況等を報告し、意見を聞いてサービス向上に活かしている。前回は夏季食中毒が議題にあがった。議事録を玄関に設置し、家族に報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導を受け協力機関を築けるように努めています。運営推進会議においても色々なご指導を頂いております。	担当課とは良好な関係を築き、アドバイスを受けている。ケアマネ会はオンライン会議となっている。中学生の体験学習の受け入れは自粛している。マスクやグローブの支給を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に虐待の防止、早期発見の為のポスターを掲示し理解に取り組んでいます。玄関を開放し、常にご利用者様に寄り添うケアを実践しています	『身体拘束その他の行動制限禁止マニュアル』『緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書』を整備し、3ヶ月毎に勉強会、年2回の研修会を実施して利用者の安心・安全に向けたケアに取り組んでいる。グレーゾーンは広い視野で捉え、信念を持って利用者の尊厳を大切にケアに努めている。関係書類は整備し、拘束排除に向けた取り組みを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	三か月に一度、身体拘束委員会を開催して防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度が必要な方には社会福祉協議会をご案内してお手伝いをさせていただいております。職員には社内研修にて学習会をしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分にご理解をいただけるように丁寧な説明を心がけております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見・要望を頂き運営に反映させております	屋外で距離をとりながらの面会時や料金支払い時、運営推進会議で意見を聞いているが、感謝の言葉が多い。担当職員が写真を添えた近況報告を毎月送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、気付きノートを活用して職員が気軽に意見を言える環境を整えています	事前に利用者・新採用職員について報告をしている。現場の気づき・カンファレンス・申し送りノートで意見や要望を聞くようにしている。職員は自主的に感染対策として家族と時間をずらし、別の場所で食事をしているとのことで、その気遣いに管理者は感謝をしているとのこと。オンライン研修で職員のスキルアップに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境造りに努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、社外研修を積極的に行い、個々のスキルアップを図っています 現在はオンライン研修も取り入れています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の管理者様との交流を行い情報交換をしています ※現在は行っておりません		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様とゆっくり向き合う時間を確保して傾聴に心がけています。寄り添う姿勢を大切にしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様と同様に、お話させていただく機会を頂き傾聴を心がけています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所される以前の情報をアセスメントして真のニーズ把握に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様にも出来ることはお手伝いをして頂き役割を持って共生することを大切にしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事にはご家族様をご招待させて頂きご利用者様との絆を大切にしています ※現在は行っておりません		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所されても出来る限り関係が継続できるように個別レクリエーションを充実させて支援を行っております	電話や手紙等で、馴染みの人と連絡を取り合う利用者がいる。以前は馴染みの美容院・お墓詣り・外食等に家族と出かけていたが、現在は自粛している。職員・利用者同士の関係が深まり、お互いを思いやる雰囲気があった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が交流を深められるように職員がお手伝いをさせていただいております 外出の機会を設けています ※現在は行っておりません		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご要望に沿う形でお手伝いさせていただいております ご家族様のご理解を得て以前の関係を継続しています ※現在は行っておりません		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各ご利用者様の担当職員を配置して、よりきめ細かい気付きをあげて適切なケアが迅速に行えるように努めています	生活歴・職歴・アセスメントから趣味や家事に取り組み、やりがいに繋げている。絵手紙や手芸が得意な利用者には先生役になってもらい、お礼の言葉を伝えている。意思の把握が困難な場合は、利用者の表情や様子から職員間で検討し、本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様からのヒヤリングに重点を置き、ケアマネージャー、ソーシャルワーカーと連携をとり把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各ご利用者様の担当職員を配置して、よりきめ細かい気付きをあげて適切なケアが迅速に行えるように努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで介護計画の素案を作成し、ご家族様のご意見をお聞きしてチームで取り組む介護計画を作成しております	家族・利用者から意見や要望を聞き、カンファレンスで利用者のニーズとケアのあり方について話し合い、ケアプランを作成している。作成後は家族に説明し同意を得ている。ケース記録は短期目標に向けたケアの実践内容を記入している。6ヶ月毎の短期目標に対するモニタリングを実施・評価を行い、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、個別ケアシートを活用して見直しをしております		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既成概念にとらわれずに柔軟な対応が出来るように努めています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用が出来るように情報収集して支援をしております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、ホームでのご様子を報告させて頂き、適切な医療を受けられるように支援をさせていただいております	協力医療機関より2週間毎の訪問診療を受けている。オンライン診療も可能である。診察後は訪問診療計画書で家族にも確認してもらう。突発時の受診も24時間可能で、家族に報告していることが確認できた。かかりつけ医を受診している利用者は、家族が薬を届けてくれる。非常勤看護師からアドバイスを受け、利用者の体調管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、ホームでのご様子を報告させて頂き、適切な医療を受けられるように支援をさせていただいております		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカー、関係者の方々と連携を取ることが出来るように関係作りを行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入所時に重度化した場合における看取りに関する指針に基づいて同意書をいただいています。状況に応じてその都度話し合いを行っています	重度化・終末期に関する指針を作成し、契約時に説明して同意書を取り交わしている。重度化する前に医師から今後予想される状態について説明があり、希望あれば非常勤看護師とターミナルプランを作成し、チームで支援に取り組む。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練を行い、実践力を身に付けられるように取り組んでいきます 往診時や訪問看護時にご指導いただく機会を設けています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域の消防団にご協力を頂き、避難訓練を定期的に行っております。夜間想定での訓練も行っております ※現在は外部の方々をお呼びして行っていません	年2回消防署指導・自主訓練を実施し、利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につけている。前回の評価を受け、災害別避難マニュアルを作成した。地域に向けた協力依頼内容は運営推進会議でお願いした。	災害時に備え、福祉避難場所を行政に確認し、職員と家族に周知することが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳の重要性を理解して、常に念頭においてケアに努めております 職員同士で不適切な言動がないかを確認しています	利用者を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。日常会話が馴れ馴れしい言葉使いにならぬよう、職員間で注意をしている。書類関係の保管場所に配慮し、情報開示に対する同意書を取り交わして個人情報保護に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が感情の表出が出来るように、日頃から信頼関係の構築に努めております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならない、ご利用者様主体のケアが第一優先に出来るように努めていきます		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご入所前のご様子をお伺いして、個々のニーズに沿ったお手伝いをさせていただいております		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の嗜好の把握に努めています。食事の準備、調理などを一緒に行っております	利用者の希望を取り入れながら、管理者が1週間分のメニューを立て、職員が買い出しに行く。下ごしらえ・配膳・下膳・食器拭き等、利用者がいきいきと取り組んでいる。朝、その日の献立を話すと「ジャガイモの皮を剥くよ」と言って利用者が手伝ってくれる。食卓には収穫された野菜が並ぶ日が多い。利用者の状態に応じた形態でマイ茶碗と箸を使用。見守りと食事介助から食欲や嚥下に注意を払っている。出前やホットプレートを使ったおやつ作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お食事の摂取量、水分摂取量を記録して、早急に適切な個別の対応が出来るように支援しております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っております。訪問診療で定期的に検診を行っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個別の排泄パターンを把握して、ご利用者様の自立に向けた支援を行っております 排泄のアセスメントをチームで行いオムツの使用数を削減する取り組みをしている	個人の排泄パターン・チェック表・表情・様子・仕草から声掛け誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に努めている。こまめな声掛けと利用者の自立心から改善した例もある。アセスメントを実施し、オムツの使用枚数の軽減に取り組んでいる。便秘は運動・食べ物・マッサージ・乳酸菌等から出来るだけ薬に頼らず、自然排便に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	研修において便秘に対する理解を深め、排泄チェック表を活用し個別に適切な支援が行えるように取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後の決まった時間に行っているのが現状です。個々の要望に沿った支援の重要性については職員が理解できるようにしております	基本週2回の入浴支援であるが、汚染や要望があれば入浴可能である。シャワーキャリーや3人介助で安心して浴槽につかることができる。バラ湯・しょうぶ湯・ゆず湯・入浴剤を提供し、気分転換を図っている。個人のタオルで足を拭いてから、足ふきマットにのる。着替えの準備は利用者と相談しながら行う。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に沿ったお手伝いをさせていただいております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重要性について研修を行っております。与薬にはミスがないようにマニュアルに従い与薬チェック表を作成してチームで確認を行っております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様、ご家族様、ご友人様から生活歴をお聞きして活気のある生活を支援させていただいております		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご要望に沿う形で個別レクリエーションを充実させお手伝いをさせていただいております	ドッグランや庭まで散歩をしたり、屋外で体操やお茶を飲み、外気に触れて五感の刺激を受けている。庭の四季折々の草木で季節の移ろいを感じることが出来る。コロナ禍前はパン屋・リンゴ園・花見等に出かけていたが、今は自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望のご利用者様には外出をして買い物などを楽しんで頂いております ※現在は行っておりません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など、なじみの関係が継続できるように支援を行っております。施設の携帯を貸し出しをしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で安心できる環境を保てるように配慮しております。季節感を取り入れた飾り物や掲示物の作成をご利用者様と行っております	玄関前のプランターに植えられた花が訪問者を温かく迎え入れてくれる。壁には夏の花火の切り絵や秋を感じる事が出来るお月見の飾りが施され、見当識への配慮があった。ホールにソファを配置し、利用者同士で会話を楽しむ姿があるという。換気に配慮し、新型コロナ感染予防に努めている。トイレが可愛い表示であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でくつろげる環境や、ホールにソファを配置してゆったりできる空間を提供しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時には、ご自宅で使用していた馴染みの家具などをお持ちいただき居心地の良い居室になるようにしております	各部屋のクローゼットが活用され、居室内は化粧台・テーブル・イス・テレビ等、利用者にとって必要なものが整理整頓されている。居室入り口には居室担当者が作成した表札が掛けられ、乱防止に努めている。家族の写真・ぬいぐるみ・お誕生日のお祝い色紙・手作り作品(風鈴)・絵画が得意な利用者が描いた似顔絵等を飾り、ホッとする空間となっている。入り口に掲示された担当職員が出勤後に清掃を行い清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の有する能力を最大限生かして、自立した生活が送れるようにお手伝いをさせていただいております		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームふれあい

目標達成計画

作成年月日 : 2021年11月8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時に備え、福祉避難場所を行政に確認し、職員と家族に周知することが望ましい。	福祉避難所を行政に確認をして、職員、ご家族様に周知する。	災害時別に避難場所の想定を行い、防災対策委員会で確認を行い社内研修をする。ご家族様にもお知らせをする。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。